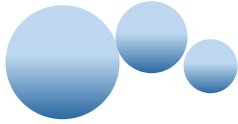




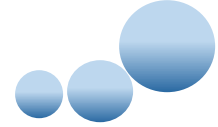
# 芝山小だより



2月号  
清瀬市立芝山小学校  
校長 寺井 俊敬  
<http://www.kiyose.ed.jp/>



## 痛み止めの言葉を 選や下ゆの言葉



副校長 本間 章郎

大寒の時期になり、朝晩の冷え込みが一層厳しくなっています。冷たく吹き付ける風に、つい身体をかがめてしまいがちですが、暦の上では、もうすぐ立春を迎えます。

先日の土曜授業公開日には、多くの保護者の方々にご参観いただき、誠にありがとうございました。子供たちが友達とかかわり合いながら学習に向い、頑張っている姿に、励ましの言葉を掛けていただいたことと思います。当日は、校内書初め展を開催しました。一人一人が集中して書いた作品をゆっくりご覧いただき、お寄せいただいた感想からも学年ごとの成長を見取っていただいたことが分かりました。

学校では感染症等でお休みをする児童もいますが、今後も感染症に留意しながら、対応策を徹底するとともに、子供たちが寒さに負けず健康に過ごせるようにして参りたいと思います。ご家庭でも食事、睡眠、運動など生活リズムを整えることを大切にしていただけましたらと思います。

さて、高熱が出れば病院で解熱剤をもらったり、強い痛みには痛み止めの薬をもらったり、痛み止めの注射をしてもらったりします。でも、病気ではなく、辛いときや苦しいとき悲しいときなどに効く薬はあるのでしょうか。

私は、これまで学校での勉強や部活動など、多くの経験をする中で、うまくいった時があれば、うまくいかない時もあり、失敗もたくさんしてきました。失敗してくじけそうな時や苦しい時は、頑張ることをあきらめそうになり、心が痛くなることもありました。そのような時、幾度も周りにいる人の言葉に励まされてきました。

「ドンマイ!」「大丈夫。」「次は、きっとできるよ。」「また、一緒に頑張ろう。」「

「気持ちは分かるよ。」「くよくよせずに、前に進もう。」「気持ちを切り替えていこう。」など。

温かい言葉や励ます言葉、共感し寄り添う言葉が、私の心の「痛み止め」となって、心の薬になってきました。

子供たちは、様々な経験を積み重ねながら成長していきます。自分の行動や取組に充実感や達成感を味わうこともあれば、時には、自分が思い描いた姿を獲得することができずに、悩むことがあるかも知れません。また、自分の周りに苦しんだり落ち込んだりしている人がいるかも知れません。そんな時は、「痛み止めの言葉」を掛けたり、掛けてもらったりしながら、前に向かって進む力に変えていってほしいと思います。

今年度も、あと2か月。教職員一同、子供たちの日々の頑張りを支え、指導して参ります。



### <校庭の芝生>

今は休眠期です。2月末頃から発芽等の準備が始まり、4月からは美しい緑色に少しずつ育っていきます。

### <2月「ふれあい月間」>

今年度3回目のふれあい月間を実施します。子供たちが、「学校生活で困っていること」や「悩んでいること」などについて、教員による日々の観察や指導に加えて、アンケートを通して聞き取ります。困り事や悩み事把握することで、一人一人への支援、指導を行うとともに、いじめ等の未然防止や早期発見につなげて参ります。